



HTLV-1、ATL、HAM等に関する相談はどこにすればいいですか？

A 県内の各保健所や市町村等で相談を受け付けています。
 専門の医療機関については、下記の県ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kagoshima.jp/kenko-fukushi/kenko-iryo/index.html>

保健所	電話番号	住 所
鹿児島市	☎099-224-1111	鹿児島市山下町 11 番 1 号
指 宿	☎0993-23-3854	指宿市十二町 301
加 世 田	☎0993-53-2315	南さつま市加世田村原二丁目 1-1
伊 集 院	☎099-273-2332	日置市伊集院町下谷口 1960-1
川 薩	☎0996-23-3165	薩摩川内市隈之城町 228-1
出 水	☎0996-62-1636	出水市昭和町 18-18
大 口	☎0995-23-5103	伊佐市大口里 53-1
始 良	☎0995-44-7956	霧島市隼人町松永 3320-16
志 布 志	☎099-472-1021	志布志市志布志町志布志二丁目 1-11
鹿 屋	☎0994-52-2106	鹿屋市打馬二丁目 16-6
西 之 表	☎0997-22-0018	西之表市西之表 7590
屋 久 島	☎0997-46-2024	熊毛郡屋久島町安房 650
名 瀬	☎0997-52-5411	奄美市名瀬永田町 17-3
徳 之 島	☎0997-82-0149	大島郡徳之島町亀津 4943-2

関係機関等	電話番号	住 所
県健康増進課 (感染症保健係)	☎099-286-2724	鹿児島市鴨池新町 10-1
県子ども家庭課 (母子保健係)	☎099-286-2775	鹿児島市鴨池新町 10-1
県難病相談・ 支援センター	☎099-218-3133	鹿児島市小野 1 丁目 1-1 (ハートピアかごしま 3 階)
県助産師会 (子育て・女性健康支援センター)	☎099-210-7559	鹿児島市伊敷 6 丁目 17-18
NPO法人 スマイルリボン	☎099-800-3112	(患者団体) ※当団体にあるキャリアママの会 「カランコエ」では、授乳に関する 悩み相談や情報交換などの交流 を行っております。なお、お問い 合わせについては、スマイルリボ ンで受け付けています。 ※HP : https://www.smileribbon.or.jp/

受け継ぐ命を守るために



「HTLV-1」というウイルスをご存知ですか。

鹿児島県を含む九州地方にウイルス感染者が多いと言われています。
 このウイルスは、母乳を介してお母さんから赤ちゃんへ感染することがあります。
 このリーフレットは、HTLV-1 について、Q&A 方式でわかりやすく説明しています。

鹿児島県・鹿児島県医師会

令和4年3月発行

Q HTLV-1とはなんですか？

A HTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス1型）とは、ヒトに感染するウイルスの一種で、ATL（成人T細胞白血病）やHAM（HTLV-1関連脊髄症）等の病気の原因となるウイルスです。

Q 感染すると必ず病気になるんですか？

A ウイルスが体の中に入っても、発病する人はほんの一部です。ATLの場合、感染からおおむね40年以上（平均55年）を過ぎた方から年間およそ1,000人に1人の割合で発症しているといわれています。

Q 日常生活で感染することがあるんですか？

A HTLV-1はリンパ球の中にひそんでおり、その感染力は極めて小さいため、身近にHTLV-1キャリアまたはATLの患者さんがいても日常生活の中ではまず感染しません。

Q どのようにして感染するんですか？

A HTLV-1の感染経路は、ウイルスを持った母から子への母子感染、輸血による感染、性行為による男性から女性への感染があります。なお、現在は献血時の血液検査により、輸血による感染はなくなりました。

Q 性行為による感染を防ぐためにはどのような方法がありますか？

A HTLV-1の感染力はあまり強くありませんので、反復した性行為を行う男女間における男性から女性への感染がほとんどであり、理論的にはコンドームを使うことで予防できる可能性があります。

Q 母から子への感染はどのようにして起こるんですか？

A HTLV-1の母子感染のほとんどが母乳による感染（経母乳感染）です。この他に、胎児が体内にいるときの感染（経胎盤感染）、出産時の感染（経産道感染）等が考えられていますが、現在のところはっきりとはわかっていません。

Q どうして母乳から感染するんですか？

A 授乳によって、母乳中の感染リンパ球が赤ちゃんの体内に入り感染すると考えられています。

Q 母から子への感染を防ぐためにはどのような方法がありますか？

A 人工栄養が最も確実な方法として推奨されていますが、感染が全く起こらないとは言い切れません。母乳栄養を希望される場合には、3か月以内の短期間の母乳栄養や凍結母乳栄養という選択肢もありますので、医療機関ともご相談の上、ご自身が最善と思う方法を選んでください。なお、本県では、HTLV-1抗体が陽性のお母さんから生まれた乳児の粉ミルク代の一部を助成する事業を実施しておりますので、県庁健康増進課または保健所にご相談ください。



Q 赤ちゃんに感染したかどうかはどうやってわかりますか？

A 3歳以降に抗体検査を受けることをお勧めします。このときに検査が陰性ならば母子感染しなかったと考えられます。

育児が始まると感染への不安が大きくなることもあります。健やかな親子関係が形成できるように、出生された産科医療機関や地域の保健師、助産師、ご家族に助けをもらうことが大切です。

本県ではHTLV-1抗体が陽性だったお母さんの希望があれば、産科医療機関からの情報提供をうけて保健師等による支援をしています。一人で悩まずにお気軽にご相談ください。



すまいるんるんちゃん
(NPO法人スマイルリボン
イメージキャラクター)